氏名（本籍）　　大嶌　徹（青森県）
学位の種類　　博士（音楽学）
学位記番号　　乙第 1 号
学位授与年月日　平成 27 年 3 月 19 日
学位授与の要件　学位規則第 4 条第 2 項
学位論文題目　　戦後日本におけるレコードを通じて形成された外来音楽愛好
　　――シリアスな受容と文化的媒介者の役割

（総合審査）　委員長　教授　吉成　順
　　教授　久保田　慶一
　　教授　友利　修
　　准教授　沼口　隆

（論文審査）　委員長　教授　吉成　順
　　教授　久保田　慶一
　　教授　友利　修
　　准教授　沼口　隆
　　渡辺　潤　（東京経済大学コミュニケーション学部教授）

審査結果の要旨

審査所見

学位審査委員会は、申請者　大嶌　徹　の学位申請論文に関して厳正な審査を行った。以下に、１．論文審査、２．総合審査に関する所見を記す。

１．論文審査

学位申請論文は、ピエール・ブルデュー以降の文化社会学理論に依拠しつつ、戦後日本における外来音楽の受容を、とくに「文化的媒介者」の役割に注目しながら、レコードによる真正性・規範的価値の設定と共有という視点から考察するものである。

本論文では、研究対象を受容全般から限定し、「外来音楽に対して特別な意味を付与し真剣に受容する趣味のあり方」に問題を定めるために「愛好」という言葉を用い、1960 年代のモダン・ジャズ、1970 年代のロックにおけるブートレッグ・レコード、1980 年代におけるサティや環境音楽、1990 年代のクラブ文化におけるレコード愛好という 4 つの対象について、そうした「愛好」の具体的な様子を、おもに文献資料やインタビューの分析を通して検討する。そのさい、レコード及びそれに関する言説の生産-流通・消費に携わる「文化的媒介者」の役割に注目しながら、それぞれの「愛好」に共通してみられるシリアスさという特徴を指摘し、特定の集団内で規範的価値が設定される過程を明らかにしていく。

具体的には、モダン・ジャズにおいてはジャズ専門誌『スイングジャーナル』、ロックのブートレッグにおいては雑誌『音楽専科』や西新宿の専門レコード店、サティと環境音楽については輸入レコード店「アール・ヴィヴァン」、クラブ文化においては「渋谷系」の中古レコード店といったところが「文化的媒介者」として取り上げられる。本論文では、ブルデューが提起した「文化的媒介者」という概念を、フェザーストンやニーガスらによるその後の研究を踏まえ

つつ、「生産と消費のあいだで商品の意味やイメージに関与する」存在として積極的に評価し、それらが戦後日本における各外来音楽ジャンルの受容において規範的価値（カノン）の設定に貢献してきた様子を描いていく。

そこに共通して見られるのは、大正期以降の教養主義的学生文化における西洋芸術音楽への愛好と同様の「シリアスさ」であり、その上で、既に確立された価値枠組みとの対話(流用もしくは反発)から新たな価値枠組みが起こり、それが一定の広がりを持って共有されるようになると、近接する受容との差異化や接合が意識的に行われて、新らしい規範となっていくのである。

論文の着眼点は独創的であり、取り上げられた対象もそれぞれ興味深く、個々の論述には説得力もあって、高く評価される。一方で、「愛好」「文化的媒介者」といった論文の鍵となる概念の吟味がやや曖昧であり個別の論述の中で十分に活用されていないのではないか、あるいは、数値的データや地図などを活用して論文の精度をより高めることも可能ではないか、といった指摘もあったが、着眼点や方法論の独創性は審査委員のこぞって評価するところであり、そうした弱点を補って余りあるものであることから、審査委員会は、申請論文が音楽学研究領域の学位論文として合格であると判定した。

２．総合審査

総合審査では、論文審査の評価を確認したうえで、申請者のこれまでの研究・教育活動の内容やこれまでに発表された業績の評価なども考慮して、総合的な審査を行った。その結果、申請者が「自律して研究を展開することができる意志と能力を備え、我が国の音楽文化の進展に寄与するとともに、国際的にも有意義な問題提起のできる質の高い研究者」として、将来も活動していくことが十分に期待できることから、「博士（音楽学）Doctor of Philosophy in Musicology」の学位を授与するに相応しいものと判定する。